

安全のために必ずお守りください。

▲ 警告

- 203mm及び180mmローターは160mmローターに比べてブレーキ制動力が高くなっています。ブレーキ特性を充分体得してからご使用ください。
- 取付けまたはメンテナンス時等に回転中のローターには触れないでください。ローターに指が巻き込まれるなど、重傷を負う恐れがあります。
- キャリパー、ローターはブレーキ操作により高温になりますので、乗車中、あるいは下車後すぐに触れないでください。やけどを負う恐れがあります。ブレーキシステムの整備は温度が十分に下がったことを確認してから行ってください。
- 雨天時は制動距離が長くなります。スピードを控えて、早めの滑らかなブレーキ操作をしてください。
- 路面がぬれていると、タイヤがスリップし易くなります。タイヤがスリップすると転倒して危険ですので、スピードを控えて、早めの滑らかなブレーキ操作をしてください。
- 乗る前には必ず前後のブレーキが正しく作動するかどうか確認してください。
- ローター、ブレーキパッドに油脂が付かないように注意してください。ブレーキが効かなくなつて危険です。
- パッドに油脂が付いた場合はパッドを交換してください。ローターの場合は洗浄してください。ブレーキが効かなくなつて危険です。
- ブレーキを連続してかけ続ける、ペーパーロック現象の発生の恐れがありますので、ブレーキを連続してかけ続けしないでください。

ペーパーロック現象とは、ブレーキシステム内の油の加熱により、ブレーキシステム内の水分、あるいは気泡が膨張、ブレーキレバーストロークが急激に増加する現象です。

- 油はシマノ純正鉱物油を使用してください。それ以外の油の使用はブレーキの作動不良、ペーパーロック現象の発生、あるいはブレーキシステムを壊す恐れがあります。
- 油は必ず開封したてのものを使用し、又、注入の際、ブリードニップルから排出された油も再注入しないでください。水分等の混入により、ペーパーロック現象が発生する恐れがあります。
- ブレーキシステム内に水分、あるいは気泡が混入しないようにご注意ください。ペーパーロック現象の発生の恐れがあります。リザーバータンクのふたを取り外す時は特にご注意ください。
- 自転車を倒立させたり横にした場合はリザーバータンク内には、リザーバータンクのふたを取付け時に残置したり、長期間の使用でブレーキシステム各部分から集まってきた微量な気泡が存在することがあります。T605ディスクブレーキシステムは倒立に対応できる設計ではありません。自転車を倒立あるいは横にした場合リザーバータンク内の気泡がキャリパー方向に移動する恐れがあり、この状態で走行するとブレーキが効かず大怪我をする恐れがあります。倒立させたり横にした場合は乗車前に必ずブレーキレバーを握りブレーキが正常に作動することを確認し、ブレーキが正常に作動しない場合は次の手順で調整してください。

ブレーキレバーを握って動きがスカスカの場合
ゆっくりブレーキレバー操作を繰り返し気泡がリザーバータンクに戻るのを待ちます。リザーバータンクのふたを取り外して油を補充し気泡をなくすことをお勧めします。それでもブレーキレバーの動きがスカスカの場合は気泡抜き（ミネラルオイルの注入、気泡抜きの項を参照）を実施してください。

- 油漏れが発生した場合はただちに使用を中止し、適切な修理を行ってください。油漏れの状態で乗り続けると突然ブレーキが効かなくなり危険です。
- ローター側にクイックリリースレバーがある場合はローターと干渉する恐れがあり危険ですので干渉しない事を確認してください。
- 自転車は、製品によって取扱いが多少異なることがあります。したがって、ブレーキレバーへの入力や自転車の操作特性などを含め、個々の自転車のブレーキ系統の適切な操作を充分理解し慣れるようにしてください。ブレーキ系統の操作が適切でないと自転車のコントロールを失い、事故のもとになり、また大怪我を招くことも限りません。適切な操作については、自転車専門店にご相談いただき、また自転車の取扱い説明書もよくお読みください。ご自分の自転車にお乗りになって、ブレーキ操作などを練習していただくことも大切です。
- 製品を取付ける際は、必ず取扱い説明書等に示している指示を守ってください。またその際、シマノ純正部品を使用をお勧めします。ボルト、ナット等が緩んだり、製品が破損しますと、突然に転倒して重傷を負う場合があります。
- 取扱い説明書をよくお読みになった後、大切に保管してください。

▲ 注意
●ブレーキ操作時にパッドとローターの摩擦音が発生しにくいA01Sパッド仕様の場合はM06パッドに比べて慣らし運転に時間がかかります。
■ 鉱物油（ミネラルオイル）の取扱い

- 目に入ると炎症を起こす場合があります。取扱いの際は保護眼鏡等を着用し目に入らないようにしてください。
- 目に入った場合は真水で洗い流し、直ちに医師の手当てを受けてください。
- 皮膚に付くと炎症を起こす場合があります。取扱いの際は保護手袋を着用してください。
- 皮膚に付いた場合は石鹸水で十分に洗ってください。
- 鉱油の蒸気を吸いすると気分が悪くなる場合があります。換気に注意し、防毒マスク等を着用してください。
- 鉱油の蒸気を吸引した場合は直ちに屋外に移動し、身体を毛布等でくるんで保温し、安静にして、医師の手当てを受けてください。
- 飲用しないでください。下痢、嘔吐します。
- 子供の手の届かないところに保管してください。
- 爆発あるいは引火の恐れがありますので鉱油の容器は切断、加熱、溶接あるいは加圧しないでください。
- 廃油：法令に定められた方法で処理してください。
- 保管方法：異物や水分が混入しないように密封した状態で、直射日光を避け、冷暗所に保管してください。火気厳禁、第三石油類、危険等級III

■慣らし運転

- ディスクブレーキには慣らし運転期間があり、慣らし運転がすすむにつれブレーキ制動力が上がっていきますので、ブレーキの制動力増加に対し注意を払い順応してください。ブレーキパッドあるいはローターを交換した場合も同様です。

■コンプレッサー 清浄の場合

- キャリパー本体内部をコンプレッサー（圧縮空気）で分解清掃した場合、圧縮空気中の水分が残る場合がありますので再組み立ての際は十分に乾燥させてから行ってください。

ご使用方法	SI-8A60A-001
ディスクブレーキシステム	

機能を充分に発揮させるために、次のラインナップによる使用を推奨いたします。			
キャリパー	BR-T605	ケーブルサポータ	SM-HANG
ブレーキホース	SM-BH59	ミネラルオイル	SM-DB-OIL
ローター	SM-RT64/M/L	ブレーキパッド	レジンパッド A01S
ブレーキレバー	BL-T605	ユニット	メタルパッド M06

使用上の注意

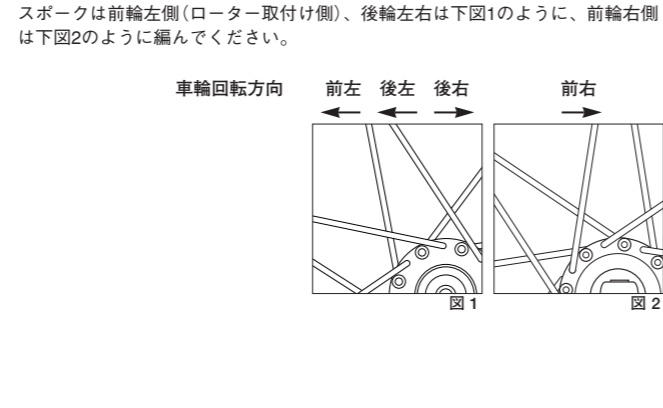
- 203mm及び180mmローターは160mm、140mmクロスカウンター用ローターに比べて直径が大きい分ローターのひずみが大きくなっています。したがってブレーキパッドと干渉します。
- ブレーキキャリパーの取付け台座とエンドが平行でない場合、ローターとキャリパーの接触のもとになります。
- 車輪を取り外した場合はパッドスペーサーを装着することをお勧めいたします。車輪を取り外した状態でブレーキレバーを握ってしまった場合のピストンの飛び出しを防止します。
- パッドスペーサーを取付けずにブレーキレバーを握ってしまった場合にはピストンが異常に飛び出します。ブレーキパッド表面に傷をつけないように注意して、マイナスドライバー等でブレーキパッドを押し広げてください。（ブレーキパッドが付いていない場合はピストンに傷をつけないように注意してまっすぐにピストンを押し戻します）ブレーキパッドあるいはピストンが戻りにくいときはリザーバータンクのふたを取り外してから行ってください。（リザーバータンクから油があふれ出る恐れがありますのでご注意ください）
- ブレーキシステムの洗浄またはメンテナンスにはイソプロピルアルコール、石鹸水を使用するか空拭きを行なってください。市販のブレーキクレンザーあるいは、なき止め防止剤等は使用しないでください。シール等を損傷する恐れがあります。
- キャリパーを分解掃除する場合、ピストンは取り外さないでください。
- ローターが摩耗した場合はあるいは割れ、ひずみが生じた時にはローターを交換してください。
- 通常の使用において自然に生じた摩耗および品質の劣化は保証いたしません。

取付け方法
この製品の組立には下記の工具が必要です。

使用箇所	工具
ローター取付け用ロックリング	TL-LR15
ブレーキレバー取付けボルト	アレンキー 5mm
キャリパー取付けボルト	アレンキー 5mm
アダプター（ポストタイプ）取付けボルト	アレンキー 5mm
ブレーキパッド固定軸	ラジオペンチ
リザーバータンクのふた	プラスドライバー#1
ケーブルサポーター	プラスドライバー#2
ブレーキホース固定ボルト	8mmレンチ
ブリードニップル	めがねレンチ 7mm

■ 車輪のスポークの編み方
スポークが図のように組まれていることを確認してください。ラジアル組は不可。

スポークは前輪左側（ローター取付け側）、後輪左右は下図1のように、前輪右側は下図2のように編んでください。



■ローター（SM-RT64）の取付け
SM-RT64（160mm） SM-RT64M（180mm） SM-RT64L（203mm）

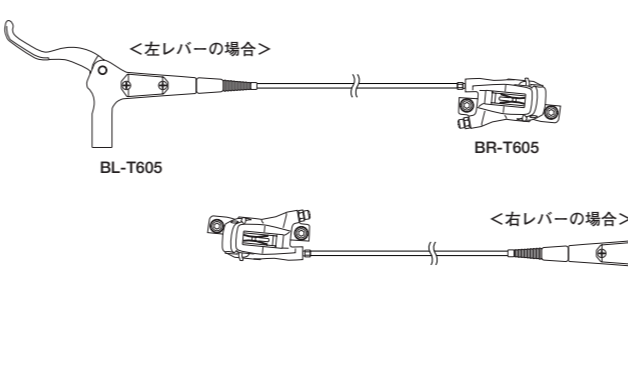
■ブレーキレバーの取付け
図のようにブレーキレバーを固定します。（ブレーキレバー操作が変速レバーと干渉しないことを確認してください。また変速レバーの取扱い説明書もご参照ください。変速レバーの締め付けボルトの位置によっては、変速レバーを先に固定する場合があります。）

■ブレーキレバーの取付け
図のようにブレーキレバーを固定します。（ブレーキレバー操作が変速レバーと干渉しないことを確認してください。また変速レバーの取扱い説明書もご参照ください。変速レバーの締め付けボルトの位置によっては、変速レバーを先に固定する場合があります。）

推奨締め付けトルクにおいても、カーボンフレーム（ハンドル）の場合には、フレーム（ハンドル）への損傷ならびに固定不十分となる可能性があります。適切なトルク値に関しては、完成車メーカーまたはフレーム（ハンドル）メーカーでご確認ください。

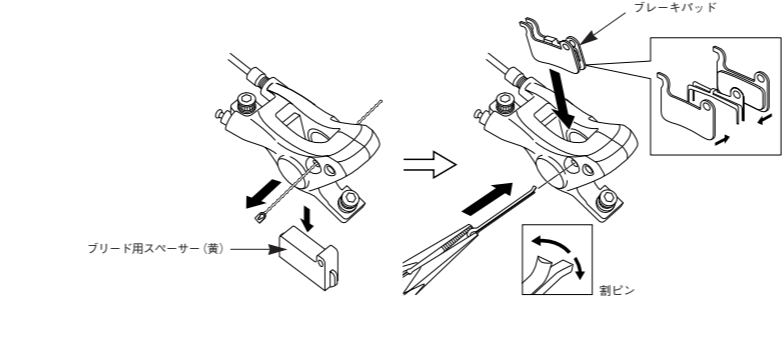
■ホースの取付け

ブレーキホースSM-BH59の取扱い説明書（SI-8H20）を参照して取付けます。この時、ホースのねじれにご注意ください。キャリパーとレバーが図のような位置にあることを確認します。



■キャリパー（BR-T605）の取付けとホースの固定

- ・ブリード用スペーサー（黄）を取り外し、ローターを取付けた車輪をフレームにセットします。
- ・ブレーキパッドを取付けます。このあと、割ピンを折り曲げます。

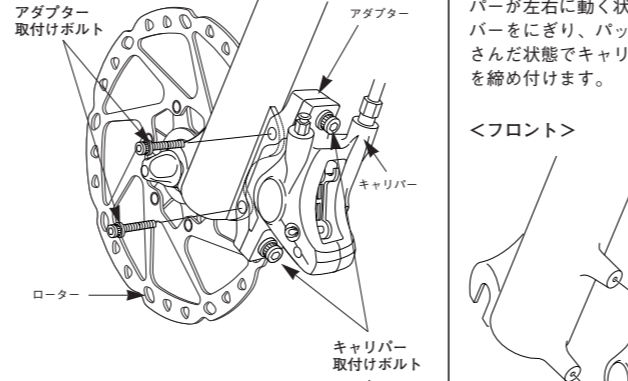


インターナショナルスタンダードマウントの場合はポストタイプマウント用キャリパーにアダプターを取付けてください。（アダプターにはフロント用とリア用があります。）

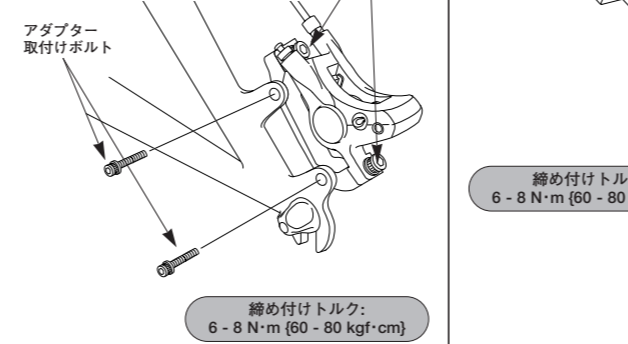
- キャリパー取付けボルトを緩めてキャリパー本体が左右に動く状態にしてから、アダプターをフレームに取付けます。
- ブレーキレバーをにぎり、パッドでローターをはさんだ状態でキャリパー取付けボルトを締め付けます。

●インターナショナルスタンダードマウント

<フロント>



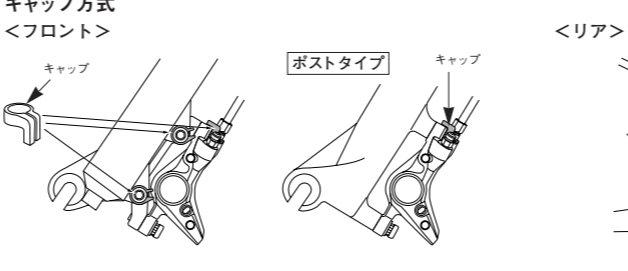
<リア>



ボルト緩み止めにはキャップ方式とワイヤーリング方式とがあります。それぞれのフロントフォーク及びフレームに合った方法で実施してください。

キャップ方式

<フロント>



ワイヤーリング方式

<フロント>



C型ガイド、従来のケーブルストッパーの場合は、シマノケーブルサポーター（別売品）を使用して、図のように取付けます。

締め付けトルク: 0.3 - 0.5 N・m (3 - 5 kgf・cm)

ブレーキレバーを数回握り、ブレーキが正常に作動するかどうか、あわせて、油漏れがないかどうか確認してください。

メンテナンス
■ブレーキパッドの交換

ご注意： T605ブレーキシステムはブレーキパッドの摩耗量に対してピストンが徐々に突出しローターとブレーキパッドの間隔を自動調整する設計になっていますのでブレーキパッドを交換する場合はピストンの押し戻し作業が必要です。

油の注入時にブレーキパッドに油が付着した場合、またブレーキパッドが0.5mmまで摩耗するか、ブレーキパッド押えバネがローターに干渉するようになれば、ブレーキパッドの交換を行ってください。

- 車輪をフレームから取り外し、ブレーキパッドを図のように取り外します。

- ピストンおよびその周辺を洗浄します。

- ミネラルオイルの注入の項（1）を参照してリザーバータンクのふたを取り外します。

- ピストンをこじらないように注意しながら、奥のあたりまで押し戻します。（この時、油がリザーバータンクよりあふれ出る場合がありますのでご注意ください。）

- 新しいブレーキパッドを取付け、パッドスペーサー（赤）を取付けます。このあと、割ピンを折り曲げます。



- ブレーキレバーを数回握りレバー操作が固くなるのを確認します。
- パッドスペーサーを取り外し、車輪をセットし、ローターとブレーキパッドが干渉しないことを確認します。接触する場合はキャリパーの取付けの項にしたがって調整します。
- 油面を確認した後、リザーバータンクのふたを取付けます。
- ブレーキレバーを元の位置にセットします。

■ピストンの作動不具合調整
キャリパーには2つのピストンがセットされていますが、ピストンの作動あるいは出代が不均等になったりブレーキパッドとローターの干渉が残る場合は下記の手順で調整してください。

- 車輪、ブレーキパッドを取り外します。ピストン及びその周辺を洗浄します。リザーバータンクのふたを取り外します。
- ピストンをこじらないように真直ぐに押し戻します。この時、リザーバータンクから油があふれることがありますのでご注意ください。
- ブレーキパッド、パッドスペーサー（赤）をセットします。
- ブレーキレバーをあたりまで操作し、数回ブレーキレバーを握るにより、2つのピストンの初期位置が一定に調整されます。
- パッドスペーサーを取り外し、車輪をセットし、ローターとブレーキパッドが干渉しないことを確認します。接触する場合はシムを使用して調整します。
- 油面を確認した後、リザーバータンクのふたを取付けます。

■ミネラルオイルの交換方法
リザーバータンク内の油の変色が著しい場合は油の交換をお勧めします。

- ブリードニップルにチューブ、袋をセットしてからブリードニップルを開いて油を排出します。この時、排出を助けるためにブレーキレバーを操作します。この後、ミネラルオイルの注入の項を参照して油を注入します。油はミネラルオイルを使用してください。
- 廃油は法令に定められた方法で処理してください。

■ミネラルオイルの交換方法
リザーバータンク内の油の変色が著しい場合は油の交換をお勧めします。

ブリードニップルにチューブ、袋をセットしてからブリードニップルを開いて油を排出します。この時、排出を助けるためにブレーキレバーを操作します。この後、ミネラルオイルの注入の項を参照して油を注入します。油はミネラルオイルを使用してください。

廃油は法令に定められた方法で処理してください。

“ミネラルオイルの注入と気泡抜き”の取扱い説明書もあわせてお読みください。
--

締め付けトルク: 0.3 - 0.5 N・m (3 - 5 kgf・cm)

ブレーキレバーを数回握り、ブレーキが正常に作動するかどうか、あわせて、油漏れがないかどうか確認してください。

メンテナンス
■ブレーキパッドの交換

ご注意： T605ブレーキシステムはブレーキパッドの摩耗量に対してピストンが徐々に突出しローターとブレーキパッドの間隔を自動調整する設計になっていますのでブレーキパッドを交換する場合はピストンの押し戻し作業が必要です。

油の注入時にブレーキパッドに油が付着した場合、またブレーキパッドが0.5mmまで摩耗するか、ブレーキパッド押えバネがローターに干渉するようになれば、ブレーキパッドの交換を行ってください。

- 車輪をフレームから取り外し、ブレーキパッドを図のように取り外します。

- ピストンおよびその周辺を洗浄します。

- ミネラルオイルの注入の項（1）を参照してリザーバータンクのふたを取り外します。

- ピストンをこじらないように注意しながら、奥のあたりまで押し戻します。（この時、油がリザーバータンクよりあふれ出る場合がありますのでご注意ください。）

- 新しいブレーキパッドを取付け、パッドスペーサー（赤）を取付けます。このあと、割ピンを折り曲げます。



- ブレーキレバーを数回握りレバー操作が固くなるのを確認します。
- パッドスペーサーを取り外し、車輪をセットし、ローターとブレーキパッドが干渉しないことを確認します。接触する場合はキャリパーの取付けの項にしたがって調整します。
- 油面を確認した後、リザーバータンクのふたを取付けます。
- ブレーキレバーを元の位置にセットします。

■ピストンの作動不具合調整
キャリパーには2つのピストンがセットされていますが、ピストンの作動あるいは出代が不均等になったりブレーキパッドとローターの干渉が残る場合は下記の手順で調整してください。

- 車輪、ブレーキパッドを取り外します。ピストン及びその周辺を洗浄します。リザーバータンクのふたを取り外します。
- ピストンをこじらないように真直ぐに押し戻します。この時、リザーバータンクから油があふれることがありますのでご注意ください。
- ブレーキパッド、パッドスペーサー（赤）をセットします。
- ブレーキレバーをあたりまで操作し、数回ブレーキレバーを握るにより、2つのピストンの初期位置が一定に調整されます。
- パッドスペーサーを取り外し、車輪をセットし、ローターとブレーキパッドが干渉しないことを確認します。接触する場合はシムを使用して調整します。
- 油面を確認した後、リザーバータンクのふたを取付けます。

■ミネラルオイルの交換方法
リザーバータンク内の油の変色が著しい場合は油の交換をお勧めします。

- ブリードニップルにチューブ、袋をセットしてからブリードニップルを開いて油を排出します。この時、排出を助けるためにブレーキレバーを操作します。この後、ミネラルオイルの注入の項を参照して油を注入します。油はミネラルオイルを使用してください。
- 廃油は法令に定められた方法で処理してください。

■ミネラルオイルの交換方法
リザーバータンク内の油の変色が著しい場合は油の交換をお勧めします。

ブリードニップルにチューブ、袋をセットしてからブリードニップルを開いて油を排出します。この時、排出を助けるためにブレーキレバーを操作します。この後、ミネラルオイルの注入の項を参照して油を注入します。油はミネラルオイルを使用してください。

廃油は法令に定められた方法で処理してください。

	製品改良のため、仕様の一部を予告なく変更することがあります。
お客様相談窓口	
☎0570-031961	
株式会社シマノ	
〒590-8577 大阪府堺区松原1丁77番地	